

平成22年度

公開研究発表会

プログラム

ポスター発表	13:00-13:30 (受付ホール)
開会挨拶	東京都環境科学研究所 所長 柿沼 潤一
食塩電解で生じるダイオキシン類について	
	13:30-13:55 分析研究科 山崎 正夫
<p>化学工業において、塩素ガスや苛性ソーダ等を製造するために食塩水の電気分解が行われます。この際、条件により高濃度のダイオキシン類が生成されます。今回、食塩電解によるダイオキシン類の生成原因や生成機構、化学組成の特徴などについて検討した結果を報告します。</p>	
光化学オキシダントの現状と課題	
	13:55-14:20 調査研究科 上野 広行
<p>東京の大気汚染は相当改善されてきましたが、光化学スモッグの原因となる光化学オキシダントについては、年平均濃度が増加傾向にあります。ここでは、光化学オキシダント発生状況や原因物質である窒素酸化物や揮発性有機化合物濃度との関連等について、現状と課題を報告します。</p>	
休憩 14:20-14:30	
都内の不燃ごみに含まれる希少金属含有廃棄物の実態について	
	14:30-14:55 調査研究科 茂木 敏
<p>東京都内で発生する不燃ごみの量は、年間約18万トン。この中には携帯電話やデジタルカメラなど希少金属を含有する廃棄物も含まれています。この報告では、今後の希少金属のリサイクル可能性を検討するために実施した不燃ごみのごみ質組成と希少金属の含有実態などについて紹介します。</p>	
多摩川の水質改善 —40年を振り返って—	
	14:55-15:20 調査研究科 和波 一夫
<p>高度経済成長期の1970年代、多摩川の水質是最悪の状態でした。その後、水質規制や下水道普及などの対策によって次第に改善し、現在は、天然のアユが大量に遡上するまでになりました。多摩川の水質改善の道程を調査研究の観点から報告します。</p>	
休憩 15:20-15:30	
特別講演	15:30-16:30 首都大学東京 高橋日出男教授
東京都心域の短時間強雨を捉える —観測データによる実態把握と事前予測に向けた研究—	
<p>近年、東京などの都市域において、雷雨性の強雨に伴う都市型水害が頻発しています。本講演では、東京都区部を中心とした強雨頻度の統計と典型的強雨事例の解析をもとに、都心域における強雨発生地域の差異や降水システムの挙動、突発的な強雨発生の前兆について言及します。</p>	
ポスター発表	16:30-17:00 (受付ホール)

平成23年1月21日(金)

13:30~16:30

都庁第一本庁舎 5階 大会議場

入場無料 どなたでも 当日先着400名

問合せ先

財団法人東京都環境整備公社

東京都環境科学研究所 広報担当

Tel 03-3699-1331 Fax 03-3699-1345

ホームページ:

<http://www.tokyokankyo.jp/kankyoken/>

